

主な取組

地域、事業者、行政の3者協働の取組みによって楠ヶ丘地域乗合タクシー「くすまる」の運行を実現。「地域の足は地域で守る～目指せ！100%自主運行～」を合言葉に、平成23年度の運行開始から様々な利用促進策等の展開により高い収支率を維持しており、平成28年度は過去最高の76.1%を記録！

○平成23年に乗合タクシー「くすまる」の本格運行を開始。

運行開始後も、自治会が積極的な利用促進を図り、高い利用率を維持しつつ現在も継続して運行しており、6年目を迎えた平成28年度には過去最高の利用者数を記録した。地域主体で自立性、継続性をもって取り組まれており、同事例が他の交通不便地域にとってもモデル的な取り組みとなっている。



多様な主体の実質的参画

○年に6回程度行われる楠ヶ丘自治会公共交通対策委員会において、自治会・事業者・自治体が意見交換。

○河内長野市地域公共交通会議においては、自治体から「くすまる」の運行状況取り組みを報告、さまざまな立場の出席委員へ情報共有。

○地域公共交通網形成計画の中でも「くすまる」の運行についてサポートし、モデル的な取り組みとして他地域への啓発を行うとした取り組みを盛り込むことを予定。

創意工夫

○住民自ら取り組みを行い、時刻表の作成・配布、のぼりの作成・設置、街頭でのPRなどを行ってきた。

○運行開始5周年の記念イベントの自主開催や2日間の乗車無料デーの実施、また期限付きの無料おためし券の配布を行うなど、新たな利用者の獲得にも努めている。

○「くすまる通信」の発行を行い、完全自主運行へ向けて「1便あたり〇名」という具体的な目標を設定、継続的な利用を呼びかけている。

自立性・継続性

○平成23年11月の運行開始から収支率は伸びており、平成28年度は過去最高の76.1%を記録するなど、非常に高い収支率を維持。自治会では、さらに収支率100%の完全自主運行を目指している。

○楠ヶ丘自治会公共交通対策委員会においては、対策委員会の委員は任期を設けず、継続的に取り組める仕組みとなっている。

○利用者の生の声を聴き、次年度の運営にいかすため、これまでも委員会と市が協働でアンケートを実施してきたが、平成29年度は、より身近な声を聴くためくすまる感謝祭を開催し、気軽に意見交換できる場を設ける予定。